



OB 会だより

国臨協 OB 会関東信越支部

2019年9月1日
 発行責任者：藤川淳策
 編集責任者：大貫経一
 国臨協 OB 会事務局
 東茨城郡茨城町桜の郷 510-7
 TEL：029-357-0397



第38回国臨協OB会 関信支部の総会・懇親会が去る6月8日（土）アルカディア市ヶ谷において、会員31名、国臨協本部・関信支部・技師長協議会の役員7名、新入会員2名の出席のもと開催されました。

今回、総会に参加されなかった会員に内容を知らせるため総会議案集を同封しました。

来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されチケットが抽選で当たり興奮している会員もいるかと思えます。連日、テレビで放映されますので、それまで体調万全に整えておきましょう。

2年後、OB会は40周年を向かえます。役員会で記念品を作ろうかという案が出ています。懇親会の内容についても検討して行きたいと思えます。ご意見・アイデアがありましたら、事務局までお知らせ下さい。

毎年、横断幕を小原千秋さんに作製していただいておりますが、布製の横断幕を作製し集合写真でお披露目しました。小原千秋さんのデザインが大変好評でした。

来年の総会・懇親会のご案内
 2020年6月13日(土曜日)
 12:00~14:30
 アルカディア市ヶ谷

懇親会のスナップを楽しんで下さい。



中田 章さんの乾杯の音頭でスタート



国臨協本部
山崎監事 小沼事務局長補佐 竹田理事



新入会員
児玉徳志さん 渡司博幸さん



国臨協関信支部
椎名事務局長 岩崎会長



技師長協議会
山田事務局長補佐 吉川会長







宴もたけなわ、堀口日出子さんに御登場
ねがいました。

PLAY ACCORDION









國見忠義さんには、アコーディオン
空演奏をしながら、懇親会の進行を行
っていただきました。

宮野勝秋さんには、集合写真などの
撮影を行っていただきました。



高橋正雄さんから、編集部に近況のよ
うすと投稿2編が送られてきました。

今回の第75号に近況のようすと1編を掲載し、もう1編は来年1月発行の第76号に掲載します。お楽しみに。

【では、近況のようす】

高崎市、茨川市のホテルや公民館等で『働く人の健康づくり』『痴呆症にならないために』『女性の長生きは世界一』『がんを知ってがんを闘う』『三大疾病を知り、向き合うか』などの演題で健康セミナーの講演をされております。その時のスナップ写真です。

ご自身は、週に3回スイミングをされております。プールサイドで撮られた筋肉隆々の写真がありますが、紙面の関係で割愛させていただきました。



「重監房」の歴史と今

高橋正雄 (元・がんセン中央)

筆者が初めて「癩(ハンセン病)」を知ったのは、太平洋戦争のさなかでした。

戦時中の少年時代は、防空壕が絶好の遊び場で、初冬の夕暮れ時、この防空壕に、旅人らしい酷いなりをした中年男性が寝転んでいました。ややあって、サーベルをガチャガチャさせて警察官がやってきて、追い払うような騒動の末、とぼとぼと暗闇の街道に消えて行ったのでした。

警察官が云うには「草津に行くのだろう・・・」と、今でも鮮明に覚えています。

昨年の晩秋、地域自治会通年の行事であるバスツアーに参加、目指すは、つい最近、試験的貯水が始まり、賛否を二分した「ハッ場(やんば)ダム」建設現場と、同じ草津街道の奥にある、国立療養所栗生楽泉園の、それも、特に「重監房」を見学する企画だったので参加してきました。

ハンセン氏病療養所以外の方では、「重監房」とは、一体どんな施設で、何が起こり、何が問題になったのか、同じ国立病院療養所機構に在籍したOBとして、広く知ってほしいとの思いが重なり、投稿させて頂きました。

ハンセン病と人権

およそ国立療養所には似ても似つかない「重監房」を知ったのは、かなり後のことでした。

その必然性と発端は、1907年(明治40年)制定の「癩予防ニ関スル件」が、「浮浪らい」から「患者隔離撲滅政策」へと変換したことに起因します。

日本では医学的根拠のないまま患者の隔離が始まり、昭和6年の旧「らい予防法」で強制隔離が法制化され、ハンセン病の強制隔離政策で、多くの患者は入所を強制されたこともあり、患者の逃亡や犯罪行為が頻発、「特別病室」といわれた病室がつけられましたが、

より重い懲罰を与えるために、療養所長に「懲戒検束権」が与えられ、療養所内にさらに「監禁所」がつけられました。

1938年(昭和18年)「重監房」16年(大正5)には「癩予防ニ関スル件」を改正して強化し、平成8年の法律廃止まで撲滅隔離政策が続きました。

残酷と恐怖の「重監房」

1930年(昭和5年)から始まった、ハンセン氏病患者を摘発して強制収容させ、ハンセン病をなくそうと云う目的ではじめられた政策。強引な患者の摘発は患者本人だけでなく、家族の離散や人権まで侵すものでした。

官民一体の「患者狩り」はエスカレートし、「国辱病」だと称して手錠をかけ、警察官や消防団員が強引に引き回し、貨物列車で送り込む騒動となりました。

正式名称を「特別病室」としましたが病室とは名ばかりで、実際には患者への治療は行われることもなく、「患者を重罰に処すための監房」として使われました。

療養所長に「患者懲戒検束権」が与えられ、療養所内にさらに「監禁所」がつけられました。

所長には警察権、検察権、裁判権をまで有し、その罪名も逃走癖・賭博・窃盗・不穏分子等々。

生き地獄の「重監房」

全部で8監房、4畳半のなかに便所、床は極端に低く湿気も充満、照明もなく、減食の刑もあって食事は日に2回、握り飯にならない程の雑穀が多く、朝食は梅干1個、沢庵3切れ、水1椀、冬は氷点下20度のなか、薄い布団が2枚、しばしば凍結した死体を入所者が運び出しました。

「患者検束懲戒規定」に「監禁期間最長2ヶ月」も完全無視。孤独地獄・闇地獄・飢餓地獄、医師が入獄者を診たためしはありません。



【重監房 食事の窓】

「重監房」は1938年(昭和13年)に建てられ、昭和22年まで使われ、およそ9年間に、特に反抗的とされた述べ93名の患者が収監され、獄死者14人、出獄後死亡者8名、生還者71人。

平均監禁日数 135日、獄死者156名、出獄後死亡者239人、生還者114人、全収監者131人。

ハンセン病は、ノルウェーの医師、ハンセンが発見した「らい菌」による感染症で、主に皮膚や末梢神経が侵されるも感染力は極めて弱い。1940年代に治療薬が開発され、現在は治療法が確立されています。日本では医学的根拠のないまま患者の隔離が始まり、昭和6年の旧「らい予防法」で強制隔離が法制化され、平成8年の法律廃止まで隔離政策が続きました。

熊本地裁は13年、隔離政策の違憲性を認めて国に賠償を命じました。

この「患者懲戒検束権」の制度を完結させ、実行させたのは、多摩全生園に就任した光田健輔氏と云われています。

入所者「重監房」撤廃運動と、国会議員調査団などが結束し撤廃が実現するとともに、所長は休職・辞任、庶務課長や看護課長ほか2名の職員が懲戒免職。「重監房」の設置を要求・実現させた光田健輔氏は、お咎めなしどころか、1951年「救らいの父」として文化勲章を授与されています。



「重監房」の復元

こうして少しずつではありましたが、ハンセン病患者の各療養所における「実態」が、社会に知られるようになっていきました。そして、撤廃後の建物は、国の隔離政策の「象徴」として、入所者の意思により保存されていましたが、入所者も知らないうちに突然取り壊されました。

入所者は国による証拠隠滅と承知しています。

2001年、ハンセン病国家賠償訴訟の熊本地裁判決が確定した後、関係するいくつかの法律が制定されましたが、その中で撤去された重監房の復元に関する法律は、2009年(平成21年)に施行されたハンセン病問題の解決の促進に関する法律「ハンセン病問題基本法」です。

この法律は、ハンセン病問題の解決のために基本理念を定めるとともに、国及び地方公共団体の責務の明確化、ハンセン病問題の解決の促進に必要な事項を定める法律でした。

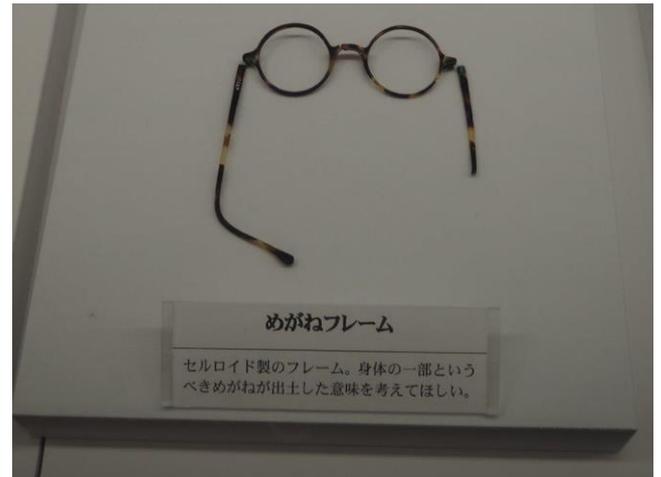
過去の歴史『資料館』

天下の名湯として有名な草津温泉があり、その近くに、国立療養所機構の栗生楽泉園があります。

正門の近くに、資料館があって、一般の方でも気軽に訪れて、ハンセン病の不幸な歴史を辿ることができます。また密かに破壊された「重監房」跡地を発掘して、獄死した入所者の遺品などが展示されていますので、あえて、国立病院療養所機構に従事したOBとして、率先して歴史と今を知ってほしいと思いました。

復元した「重監房」に隣接したところに、資料館があり 学芸員のセミナー・ルームで、所員によるビデオ解説などが視聴できます。

入所者自治会もまた、入所者自身の居室にて直接面談ができる機会を設けようとしています。



また入所者自治会は「人権の碑」建立計画に取り組んでいます。

入所者自治会会長の藤田三四郎氏は「眠っている2千人超の慰霊を兼ねて人権の場となるよう多くの人に理解の輪を広げたい」と語っています。

見学当時、藤田自治会長とお会いすることを互いに期待していましたが、体調の都合で入院されたとのことでお会いすることを遠慮しました、が「次の機会にお会いしましょう」と丁寧なお手紙をいただきました。

藤田会長とは、数十年にわたって年賀状の交換を続けております。

(終)

サラリーマン川柳 Part I**【現役時代 仕事編】**

我が上司 丸投げとバトン渡しは 五輪級

人事異動 オレの後任 人工知能

五時過ぎた カモンベイビー USA ばらし

上司宅 家ではこんなに 動くのか

「あの頃は…」今を語れぬ 我が上司

夢を持って そう言う上司よ 夢見せて

やっと縁 切れた上司が 再雇用

例の件？ ありすぎて困る 何の件？

叱っても 褒めても返事は「ヤバイッス」

【現役時代 家庭内編】

なぜ怒る 早く帰って 来ただけで

リストラで 冬のアナタと 妻が言う

「前向きね」駐車場に 励まされ

朝ラッシュ ランチ満席 夜一人

切った後 価値が上がった 株と彼

終業後 家に帰れば 家事始業

脱サラし 農業継ぐも 親上司

【定年後 家庭内編】

ああ定年 今日から妻が 我が上司

再雇用 昨日の部下に 指示仰ぐ

就職先 自宅警備と 息子言う

趣味探し 定年前の 大仕事

人生の 余暇はいつ来る 再雇用

ゴール前 延びる定年 老い越せない

ふところは 年中無休 クールビズ

パソコンを 使いこなせず 紙ってる

増えていく 暗証番号 減る記憶

オレオレと アレアレ増える 高齢化

妖怪か ヨー出るヨー出る 妻の愚痴

コインより 仮想に近い 夫婦仲

メリカリで 妻が売るのは 俺の物

妻の愚痴 返す言葉は「うん そだねえ」

母強し いいえ女性は 皆強し

半端ねえ 妻の小言は 容赦ねえ

お犬様 俺の四倍 床屋代

家にいて 娘と会話 ラインにて

携帯を 持ってわかった この孤独

よく切れる スマホの電池と うちの妻

USA 流行りに乗れない まあいっさ

参観日 こっそり祖父母も ひよっこりはん

ひどい妻 寝ている俺に ファブリーズ

壁ドンを 妻にやったら 平手打ち



『ここまで来た診療の補助』

ある病院の病棟を見学した。驚いた。看護師さんが患者さんの心音を聴診器で聞いているのだ。夢ではないかとホッペをつまんでみた。「痛い」考えたら診療の補助の一つだった。

同院の検査技師長さんは言う。「もう、当たり前のことですよ。患者さんは痛くもなければ痒くもないから」と。放射線技師さんの仕事は業務独占で診療補助ではない。単独の独占だ。

昔ロシアのチェルノブイリでの原子力発電所の爆発、多数の死傷者が発生した惨事。忘れたくても忘れ得ない悲劇だった。

『上下職間にも礼儀あり』

自宅から立川駅へはバスで行く。町の発展で住居が高度化し、二階、三階建ては撤去。八階、十階と高層化する。その工事のために足場を組む。

若い作業員がこの足場をポンポンと跳ねるように降りていく。それを見ていたトビ職の親方らしい人が大声で叫んだ。「このオーバカ、危ないではないか」。聞いていた人達は思ったのではないか。「ほかに言葉がなかったのだろうか」と。あの親方と弟子には、きっと深いミゾが発生したのではないか。

『河合忠先生 臨床検査医さようなら』

日本でも数少なかった臨床検査医師の一人、河合 忠先生が医療(臨床)検査の世界から引退した。日医QCをはじめ、いわゆる検体検査などで一世を風靡した先生だった。

小酒井先生も今や故人。小酒井・河合時代も時の流れと発展でさらに向上していくのだろうが、後が心配になる。正・反・合の理論で言えば発展的という位置付けになるのだろうが、臨床医と合わせて臨床検査へ進む先生は今後出てこないのではないか。河合先生のサラサラと川の流れのような英語も、もう聞く機会はない。

『澄む空に足重く』

桜咲き、福寿草が黄金の花を世に送っている。空を見れば紺碧。限界がない宇宙。国臨協OB会員の心の鏡にも似る。

どこまでも青い。世は若葉から青葉に。職人さんは、今年も菊花展で優秀賞を得るべく水、鉢土、肥料、鉢、そして太陽と見る者をして余念がない。いいね。草春は。外の空気は甘い。窓を開けて窓枠を見たら杉花粉。外行く人の顔を埋めるような大きなマスクで美顔を隠している。杉、ヒノキの花粉。今日も現職の技師さん達は、血液ストリッチ%でエオジノ細胞だ、花粉、アレルギーだ。「窓を開けたら閉めようネ」とアレルギーを防いでいるのがよくわかる。

『天声人語に思う』

朝日新聞の一面下蘭に、同紙編集部の責任者らしい記者さんが、毎朝決められた文字数で面白い記事を書いている。称して『天声人語』。むずかしい話はさておいて、どうもこれを書いている記者さんは一人らしい。あれだけ多い文字数でしかも雨の日も風の日も休まず書いている。大変だと思うのが、種探した。

これを書いていて思い出したことがある。その昔、恩師の教え「注意力」だ。この力学を上手に使えば文章の上手い下手はあっても種には困らないというのだ。世に全く同一という現象はないという。だから、道路脇に咲いている雑草の花も、昨日の感想と今日の

感想では同じではないから、いくらでも文章になると語る。今、下手な文章を書いている。

今日はこれでおしまい。明朝も朝日新聞の天声人語を読みながら、記者さんのご苦勞を察したい。

『尾籠で失礼だが糞便学を』

検査技師に無縁でないのが人体の排泄物。いわゆる尿であり大便だ。昔は大便という文字を嫌って尿と作字したこともある。

定年を迎えた若き高齢者よ。九七才を超えた人は二～三人に一人程が『がん』になるという。そのがんも大腸が多いらしいというのだ。だからOB会員の全員が毎朝注意深く検査・判定すれば早期発見に連動するかも。それに一週間一回、同二回、同三回と回を重ねるほど意義深い。

この私、実は大腸がんになった。しかも典型的な大腸がん、もともと胃腸は丈夫ではなかったから、若い頃から腸のがんには注意してきたつもり。そこで、私の所蔵データから一例を紹介する。さて、便潜血反応 あなたならどうする？

二月九日(一)

八月十五日(一)

翌年二月二十一日(一)

五月三日(廿)

五月十一日(一)

五月十八日(一)

六月十二日(一)

自己指挿入(一)

六月二十五日診療所で進行性がんと決定
同年八月二十八日結腸がん摘出手術
今年(2019年)三月 がん検査CT、MRで陰性

2019年3月31日付けで退職された臨床検査技師長の後任人事

		(異動抜粋)
退職 ←	渡司 博幸 臨床検査技師長 東京	← 峰岸 正明 臨床検査技師長 高崎総合医療
退職 ←	久高 果市 臨床検査技師長 多摩全生園	↘ 渡邊 孝浩 副臨床検査技師長 沼田
退職 ←	大川 正人 臨床検査技師長 成育医療	← 石井 幸雄 臨床検査技師長 災害医療
退職 ←	児玉 徳志 臨床検査技師長 神奈川	↘ 山田 大助 副臨床検査技師長 久里浜
退職 ←	南雲 功 臨床検査技師長 栃木医療	← 瀬下 明子 臨床検査技師長 箱根
退職 ←	長田 裕次 臨床検査技師長 村山医療	← 佐藤 成彦 臨床検査技師長 東長野
退職 ←	菅 孝 臨床検査技師長 西新潟中央	← 渡辺 靖 臨床検査技師長 東埼玉

4月20日(月)に第47回国臨協関信支部定期総会が開催され、令和元年度国臨協関信支部の新役員が承認されました。

- 【令和元年 国臨協関信支部新三役】
- 支部長 岩崎 康治 埼玉病院
臨床検査技師長(留任)
 - 副支部長 吉田 茂久 信州上田医療センター
臨床検査技師長(新任)
 - 副支部長 若林 弘 霞ヶ浦医療センター
副臨床検査技師長(新任)
 - 事務局長 椎名 将昭 水戸医療センター
副臨床検査技師長(新任)

第47回 関信支部学会開催のお知らせ

上記についてOB会会員の皆様へ下記の通り開催案内がありました。

日時：2019年9月7日（土）
9：30～16：30

会場：国立国際医療研究センター

テーマ：変革～新しい時代に向かって

学会長 国臨協関信支部長 岩崎康治

会費未納の方は

1月に送りました払込取扱票を使用して下さい(手数料はかかりません)。または、郵便局にあります払込取扱票を使用して下さい(手数料がかかります)。

口座番号 0250-6-55348
加入者名 国臨協OB会関信支部

会費：3,000円

2019年度 OB会役員

会長	藤川 淳策
副会長	木下 忠雄
事務局長	大貫 経一
会計	澁谷 千春
役員推薦委員	三浦 隆雄
会計監査	浅里 功
会計監査	岩村 義昭
相談役	小原 千秋
相談役	宮野 勝秋

会報原稿の募集

近況報告、身近な出来事や情報、自作のイラスト・写真・エッセイ・川柳・旅行記・趣味・ご当地の料理や観光紹介など形式は特に問いませんので、お気軽にお寄せ下さい。

原稿はワード(docx形式)で作成しメールにて送付して下さい。

なお、原稿のご依頼を電話又は手紙にてお願いすることがあります。

<送付先>

〒311-3117

茨城県東茨城郡茨城町桜の郷510-7

大貫 経一

TEL:029-357-0397

Mail: ohnuki@ae.auone-net.jp

【編集後記】

近年の子供達の名前を見ると、読めない書けない名前が多く見られます。孫の名付け親になった会員もいるかと思えます。いろいろ悩んだ末に付けた名前が、昔風ということで却下されたという話を聞きました。

今年5月1日、元号が『令和』と発表されました。各地で祝典が開催され歓迎ムードで盛り上がりました。

さて、ボランティア活動をしている仲間達との会話の中で『葬儀・墓』の話題になりました。当然、お布施の話になり、相場は？、いくら払った？、となりました。戒名の話になり、ある人の親父さんは、生前、居士が欲しいので、住職に掛け合って一字10万円でもいいかどうか交渉してくれと言ったそうです。それを聞いていた人が、「俺は、純米大吟醸院酒好〇〇〇居士がいいなあ」